



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



## 禍を転じて福と為す

歯科病院長 岡野 友宏

私は本年5月の歯学部だより「放射線の被曝線量限度はどのように決まるか?」という文章を書きましたが、そこでは事実を客観的に述べるにとどめました。7月に開催された歯科病院の公開講座では放射線や放射能を説明しましたが、同時に15年前の私の主張、「安全であるはずもない原発を安全だという主張をやめて、一刻も早く代替エネルギーの研究が始めることが日本の進むべき道だ」を引用して個人的な考えを述べました。原発がなぜ危ないか、これは今や様々なメディアを通じて紹介されておりですが、一番わかりやすいのは、福島で進行している事態をいまだに制御できていないという事実です。紀伊半島を襲った台風で100人余りの命が奪われたのは不幸ではありますが、また津波で多数の方々が犠牲になり、住む町の姿が一変したのは誠に忌まわしい出来事ではありましたが、形は変わるにせよ、5年後、10年後には復興し、残された人々は希望を持ってその地で生活を再開することでしょう。それが歴史でした。しかし、福島原発の周辺10キロ圏は半世紀という単位でことが収まることはありません。私たちは私たちの社会が受け入れることのできない原発を背負っています。中沢新一さんは原発を核分裂する小さな太陽と擬え、これが「無媒介」的に生態圏に持ち込まれたと表現しています(「日本の大転換」集英社新書)。日本の為すべきこと、それは第一に原発を生かしながら終焉させること、これは物理学的・化学的・技術的、どの側面でも極めて困難な作業だということを国民は理解し、原発の「恩恵」を享受し一方で放置した責任をとって、応分の経済的な負担を受け入れるべきです。ここで開発された終息技術は国内外で評価されることでしょう。その上で、第二にすべきこと、太陽エネルギーに代表される自然エネルギーの研究開発。当面は高騰する化石燃料の奪い合いの中で苦しい立場に追い込まれますが、むしろこれが代替エネルギーの開発を加速させ、日本は科学技術の新たな領域を開拓できるかも知れません。また節電にも慣れてきましたが、さらに一層の省エネ技術の進歩が求められます。第三にこの際、福島を中心に国を挙げての農業の復興を図ってはどうか。太陽エネルギーを利用した野菜



工場などが期待されていますが、非常に魅力的な研究事業になると思われます。除染技術の研究も重要で、これが進めば原発周辺を除いて、福島は復興するでしょう。

放射線影響の問題が最後に残ります。まずは線量を適切に推定することです。放医研の推定では3月14日から1ヶ月間に東京に住んでいた人の被曝線量は食事、水道水、空気、外部被曝などで約120 $\mu$ Svとのこと、1年住んでも一般人の基準である年間1mSvを超えることはないでしょう。これに対して福島市や郡山市にこの一年住めば10mSvを軽く超えます。外部被曝には医療で用いる個人モニター用線量計の利用が当面は進められますが、扱いの容易な線量測定法を早急に開発すべきです。内部被曝についてはその低減技術を考えねばなりません。同時に広島・長崎なみの健康管理と疫学調査を行います。30-50年に及ぶ調査をしても、放射線誘発がんやその他の疾患の増加を統計学的に証明することは困難かもしれませんが、県民一人一人の被曝線量の推定と健康調査・管理は国の責任です。

これらの技術は調査や管理を含めて、いずれ日本以外でも応用されることになるでしょう。ついでながら、患者さんがX線検査を忌避することが以前より多くなったといわれます。不必要な検査はもちろん無用で、EBMに沿った画像検査のガイドラインが歯科を含む多くの診療領域で提示されています。診療の場ではX線検査の必要性を説明して患者さんの理解を得ることが大切です。管理されたX線検査であれば患者さんの被曝線量は非常に低いものだからです。

## 昭和大学歯科病院臨床研修歯科医採用試験が実施されました

総合診療歯科学講座 長谷川 篤司

平成24年度臨床研修歯科医の採用試験が9月10日(土)に実施されました。4つのプログラム計100名の募集に対して19校から297名(新卒227名、既卒70名)が受験し、うち本学出身者は125名(新卒104名、既卒21名)でした。試験は旗の台校舎5号館(面接試験)と4号館(筆記試験)で実施され、3時間弱の試験時間でしたが、皆スーツ姿で肅々と試験に臨みました。

この結果は9月21日の臨時研修管理委員会、歯学部教授会を経て、マッチング協会に登録され、10月18日にマッチング結果として明らかになります。

## 歯科医師国試の新出題形式

D6チューター会議議長 佐藤 裕二

第105回歯科医師国家試験(平成24年2月4、5日)から、これまでの五肢択一式(Aタイプ)、択二式(X2タイプ)および正解肢数を指定せずに選択させる形式(XXタイプ)に加えて、新たに「計算問題」と「多選択肢形式(6以上の選択肢から1つの正解肢を選ぶ問題)」が加わります。本学の模擬試験でも出題予定です。ますます難化する国試に向けて、教員も一丸となって取り組みをお願いいたします。

### ◎計算問題(計算結果の数字を選択)

1歳6か月児歯科健康診査の結果を表に示す。

齲蝕罹患型	O <sub>1</sub>	O <sub>2</sub>	A	B	C
人数	12	28	6	3	1

齲蝕有病者率「(1)(2)%」をもとめよ。

正答: 20%の場合, (1)2 (2)0

### ◎多選択肢形式(6以上の選択肢から1つ選択)

伴性劣性遺伝疾患はどれか1つ選べ。

- a 血友病
- b Down 症候群
- c 口唇・口蓋裂
- d 骨形成不全症
- e 色素性乾皮症
- f 神経線維腫症
- g Marfan 症候群

正答: a

## 医学教育者のためのワークショップに参加しました

歯科矯正学講座 倉林 仁美



7月23日(土)から2日間にわたり、第17回医学教育者のためのワークショップに参加しました。医学部ワークショップは4学部合同のビギナーズ(2泊3日)、

アドバンスト(1泊2日)からなり、同時に歯学部ワークショップも開催されたことにより、総勢120名の昭和大学職員が、葉山のIPC生産性国際交流センターに集まりました。私が参加したアドバンストの受講者は23名、4学部+看護専門学校、富士吉田教育部、基礎、臨床のメンバーから構成され、私が属していたグループCでは、「入学試験における面接試験のあり方」について検討しました。昭和大学のアドミッションポリシーが求める学生像については、小口理事長、片桐学長から直々に「チーム医療のできるコミュニケーション能力」についてご助言頂きました。

重要とされながらも客観的評価の難しい面接試験は、将来、昭和大学を支える貴重な後輩の確保には欠かせないものです。少子化、学力低下により学生確保が困難な時代、医学部の面接試験のスキルに導かれながら、学部特有の事情を理解し合い、具体的な方法を検討した有意義な2日間でした。

## 歯学部ワークショップに参加しました

歯科保存学講座 谷 千尋

第16回 昭和大学 歯科医学教育者のためのワークショップが7月30、31日 IPC 生産性国際交流センター(神奈川県三浦郡葉山町)で開催されました。本年度は医学部とビギナーコースを含めた3コース同時開催で全参加人数はこれまでにない大人数となりました。歯学部アドバンスコースでは「国家試験合格率の向上を目指して」と「チーム医療ができる歯科医師の養成」の2つのテーマについて討論をしました。私の参加したグループでは「基本的な生活・学習習慣をいかに確立させるか?」というサブテーマで、指導担任のあり方と成績下位20名への対応について検討しました。討論に先立ち、昭和大学歯学部5期生で現在東京歯科大学教授の佐野司先生に講演をしていただきましたが、東京歯科大学の学年主任は大変な激務で、参加した全員に衝撃が走る程でした。

我々も本学指導担任制度について再考し、2日間という短い期間ではありますが最良と思われるプロダクトを作成してきました。



初日夜に行われた懇親会は医学部を含めたすべてのコース合同で開催され、片桐学長の挨拶から木内教授の万歳三唱まで非常に親密な学部間の連携討議が夜を徹して行われました。

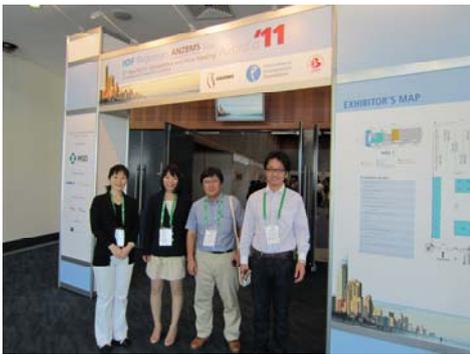
## IOF Regionals Australia 2011 で発表しました

大学院3年（歯科補綴学専攻）秋山 智人

9月4日～8日にかけて、オーストラリアのゴールドコーストで行われた2nd Asia-Pacific Osteoporosis and Bone Meeting に参加してまいりました。

本学会は、国際骨粗鬆症財団（IOF）と、日本骨代謝学会、オーストラリア・ニュージーランド骨代謝学会との共同で開催されたもので、第29回日本骨代謝学会にて IOF-ANZBMS 2011 Travel Award を受賞し、今回発表させていただくことになりました。昭和大学より口腔生化学教室の宮本洋一先生、宮本阿礼先生、口腔病理学教室の安原理佳先生の4名が参加致しました。今回の学会では、実験方法や手技も含めて最新の骨研究から国別の統計など、大変勉強になりました。初めての国際学会の為、大変緊張しましたが、とてもゆったりとした雰囲気の中で発表することができました。また、学会会場は、緑に囲まれた川沿いの、海が見えるととても美しいところでした。街から少し離れると、

複数の国立公園があり、そこではもののけ姫のモデルとなった森や、飛行石（天空の城ラピータ）のモデルとなった土



ホテルなどを見ることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

このような機会を与えてくださった上條教授、馬場教授をはじめとする各教室の先生方に心より感謝いたします。

## 先端歯学スクール2011で発表しました

大学院3年（歯周病学専攻）相澤 怜

9月1日、2日の両日、神奈川県三浦市で開催された「先端歯学スクール2011」に参加して参りました。国立大学歯学部を中心に結成された先端歯学国際教育研究ネットワークの主催による「先端歯学スクール」は、各大学から選ばれた大学院生が一堂に会し、研究発表・ディスカッションを中心として交流を深め、将来の歯学研究を担う人材を養成することを趣旨としています。本スクールには今年から本学の大学院生も参加できることとなり、ネットワーク委員である口腔生化学教室の上條教授からのご推薦もあり、私が研究発表を行う機会をいただきました。今回は全国の

国公立大学と本学を含む私立大学2校の計13校から1名ずつ選ばれた大学院生による研究発表、ネットワーク委員による教育講演が行われました。

研究発表では発表内容はもちろんのこと、発表後のディスカッションが重視され、活発な質疑応答が行われました。これらから学ぶことも多く、他



大学大学院生との交流も深まり、大変貴重な経験になりました。私は今回の発表で幸運にも優秀賞をいただくことができ、来年2月に本ネットワークが新潟で開催する国際シンポジウムにて発表する機会をいただきました。

このような機会を与えていただいた歯周病学教室の山本教授、口腔生化学教室の先生方をはじめ、共同研究者の先生方に厚く御礼申し上げます。

## 受賞

広報委員長 井上 富雄

・相澤 怜(大学院3年 歯周病学専攻):9月1日、2日に開催された「先端歯学スクール2011」で優秀賞を受賞しました。



## 行事予定

広報委員長 井上 富雄

10月1日(土):富士吉田父兄会  
 10月7日(金)~10月9日(日):旗が岡祭・いぶき祭  
 10月9日(日):第4回ホームカミングデー  
 10月18日(火):歯科医師臨床研修マッチング発表  
 10月18日(火):解剖慰霊祭  
 10月22日(土):父兄会秋季部会  
 11月6日(日):推薦・編入(I期)  
 11月12日(土)、19日(土):D4学部連携PBL  
 11月15日(火):創立記念日

## 診療統計(平成23年9月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	19,572	724.9	746.5	704.3
入院患者	593	19.1	17.4	16.4

## A WONDERFUL TIME IN SHOWA UNIVERSITY

歯科放射線学講座 Vajendra Joshi

I, Dr. Vajendra Joshi, have been appointed as a 'Foreign Research Scholar' at Showa University School of Dentistry, Tokyo from April 2011 to September 2011.

I have completed my graduation (Bachelor of Dental Surgery) at AME's Dental College, Raichur and post graduation (Master of Dental Surgery) in the field of Oral Medicine and Radiology from D.A.P. memorial R.V. Dental College, Bangalore, Karnataka, India. Presently I am working as Associate Professor at Navodaya Dental College and Hospital, Raichur.

While I was in India, I always used to hear many stories about hard-work and disciplined nature of Japanese and when I came here and stayed in the University, I found that not only everything which I heard was true, but also I saw the kindness of the people over here. I was very much interested in the field of CT, cone-beam computed tomography (CBCT) and its applications. I feel very lucky to work in the department of oral radiology under the guidance of Professor Tomohiro Okano.

I presented a paper titled "Diagnostic imaging of an asymptomatic massive oral hemangioma: A case report" at the 18th International Congress of DentoMaxilloFacial Radiology which was held at Hiroshima on May 25th - 29th, 2011. I have done a study regarding Skeletal Maturity Assessment by using CBCT and submitted the manuscript for publication. I would like to thank everyone in the department of radiology, especially Professor Tomohiro Okano and Assistant Professor Yukiko Matsuda for their guidance. I hope this amazing experience at the Showa University helps me in my future academics as well as clinics.

I would like to thank Professor Takashi Miyazaki, Dean, Showa University School of Dentistry. I also thank the staff of International exchange centre of Showa University for their kind help during my stay at Japan.

I am very much grateful to Professor KS Nagesh (Principal, D.A.P. Memorial R.V. Dental College, Bangalore, India) and Professor Tomohiro Okano for giving the opportunity to work at this university.

I will always remember the sweet memories of Japan and hope to visit Japan again in future.



## JCCサマープログラムに参加して

歯学部 2年 茂手木 薫

この夏、私は JCC サマープログラムに参加し、ニューヨーク州ジェームスタウンにある大学 (JCC) の寮に3週間滞在しました。



テレビでよく見るニューヨークシティからは飛行機で1時間ほど離れた田舎町で、町は嘘だろと思うほど自然がいっぱいで、どこもかしこも広大で、どこもかしこもハンバーガー、という印象でした。高いビルもないため空が広く見え、特に夜は星が綺麗でした。平日の午前中は JCC で英語の授業、午後は自由行動で、BBQ をしたりナイアガラの滝にも行きました。また、一般病院はもちろん、癌センター、歯科医院、老人ホーム、託児所などの施設も見学に行きました。

老人ホームでは、フライドポテトが出されており、各入居者の部屋の前にプロフィールが書いてあり(会話のきっかけになるそうです)、離れた病院の医師や看護師とも会議できるようにテレビカメラつきの会議室もありました。また、見学する際の服装が上下スウェットでも問題が無く、文化や環境、価値観の違いを強く感じました。田舎では医療環境が十分整っておらず、歯科医院も少なく、最近2人ほど虫歯が悪化して亡くなったと聞いたときには大変驚きました。とても濃密な3週間で、本当にたくさんの貴重な経験ができました。

## 編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

記録的な猛暑の夏に終わりを告げ、電力使用制限令は解除されましたが、震災後、この国の問題はまだまだにも解決していません。今年の夏は例年と違い、節電や自然災害(台風)対策と世の中の不安に対して何かしら考える時間を持つことが多かった気がします。しかし、震災後日本人の心に芽生えた「絆」を大切にしていれば、いつかまた、日本中に笑顔がもどることでしょう。末筆ではございますが、お忙しい中、原稿を執筆して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。